

新潟ジュニアドクター育成塾

R4.8.19 No.3



体験学習【佐渡研修】

佐渡自然共生科学センター永田尚志教授、
綿引大祐特任助教から講座を担当いただきました。



午前中は、ガイダンスの後、班に分かれての野外活動です。ビオトープに棲む生物を捕虫網や魚とり網などを使いながら採集します。バッタやトンボ、魚、水生昆虫などを捕獲するたびにあがる歓声と、夢中になりすぎて泥にはまりあがる悲鳴があちこちから聞こえるなど、受講生は大喜びです。

午後は、捕獲した生物の同定です。小型水槽（ミルソー）やシャーレ、双眼実体顕微鏡、光学顕微鏡などを使いながら、各種図鑑で生物名を班ごとに探り当てていきます。あちこちから「うわっ」「すげっ」などの声があがります。



受講生には、採集や実物を観察することの楽しさや、仲間と一緒に活動できる喜びだけでなく、空気感やにおい、触れた感じなど、五感を通してでしか味わうことができない貴重な経験となりました。



追記

42名の受講生のうち5名が諸事情により現地に行くことができませんでしたが、急きょ研修会場と受講生の自宅をZoomでつなぎライブ配信することができました。

今回の講座は、4年目にしようやく実施することができた企画でした。教職員3名、看護師資格を有する2名を含む7名のTA、計10名のスタッフで引率する万全の態勢で臨み、あらゆる事態を想定し当日を迎えました。しかし、結果的にはいい意味で完全に空振りに終わりました。前日の雨がウソのような晴天、秋を感じさせるさわやかな風、受講生のきまりの良さと万全な健康状態、ケガ人ゼロ、トキ交流会館と佐渡自然共生科学センターの万全の受け入れ態勢など、すべてが良い方向に転び、引率スタッフも楽しく充実した一日を過ごすことができました。新潟港ターミナルまで送迎いただいた保護者および関係者の皆様と受講生に改めて感謝申し上げます。

※この取組は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)による「ジュニアドクター育成塾」事業(2019年度～2023年度)に採択されています。